

# 着実な砂防堰堤の整備により土砂・洪水氾濫を防止

【速報版(令和元年12月16日)】

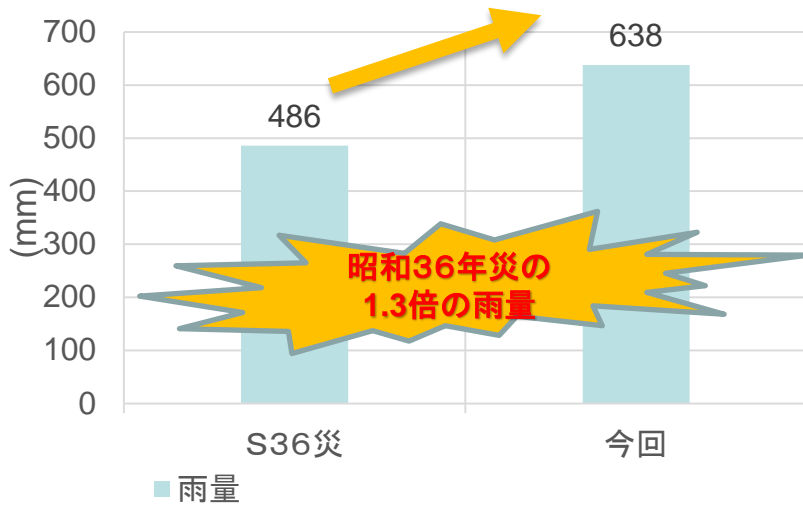
## ～ 令和元年 台風19号による伊那谷の豪雨 ～

○令和元年10月 台風19号により、戦後最大の災害「昭和36年災」を超える638mmの総雨量を観測、流域の美和ダムでは効果を発揮。

○昭和36年災では136名の死者・行方不明者、8800戸を超す家屋被害が発生したが、その後の着実な砂防堰堤整備により、土砂洪水氾濫を完全に防止。

○昭和36年災以降の砂防の設備投資約330億円により、流域の約870億円の資産に対して被害を軽減。

### 昭和36年災における総雨量の比較



S36災 伊那市長谷の被災状況

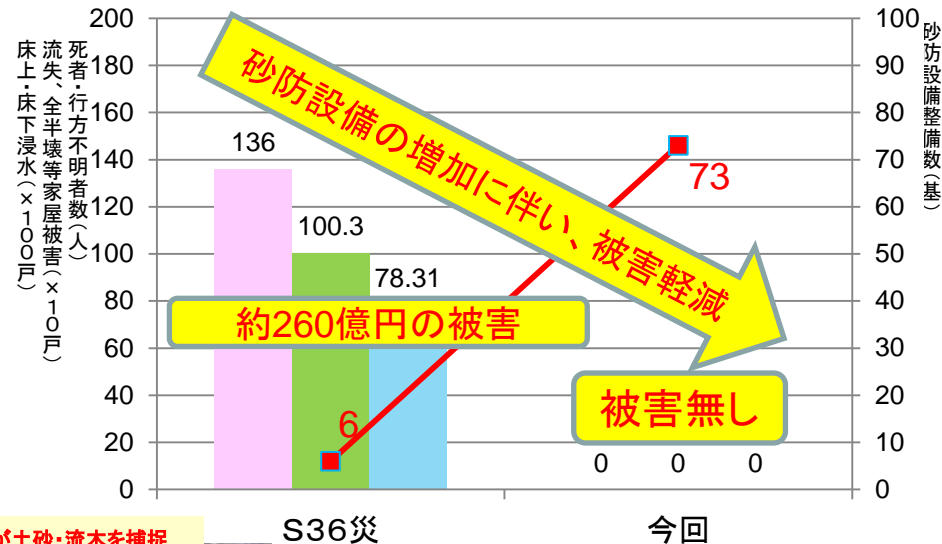


砂防堰堤の整備により被害無し

台風19号 砂防堰堤が土砂・流木を捕捉 (小瀬戸第1砂防堰堤(三峰川本川上流部))



### 昭和36年災の出水の被害状況と今回の比較



- 死者・行方不明者(人)
- 流失、全半壊等家屋被害(×10戸)
- 床上・床下浸水(×100戸)
- 砂防設備整備数(基)

※砂防設備整備数は三峰川流域の直轄分の集計  
 ※被害状況は天竜川流域(長野県)の集計 (天竜川水系河川整備計画より転載)  
 ※総雨量は三峰川流域での最大の雨量観測所の値(S36は伊那里、今回は北沢)  
 ※被害額は上伊那地域の被害額を現在価値に換算したもの  
 ※資産(便益)は1/100洪水時の土砂・洪水氾濫における被害から計算